

岡部玄さんへ

岡部さんの作品を拝見したのは、今から約20年前岡山県立美術館で開催されていたアートブリッジⅡだったと記憶しています。そして一緒にお仕事をさせて頂いたのは10年程前、天神山文化プラザの企画で実施された「アートの今・岡山」という企画でした。ベテラン作家さんばかりを集められた企画で、各人に失礼の無いようにと変なところにばかり気を使っていた私に、自分の面白いと思うコンセプトで展示構成するべきだと声を掛けていただいた事を記憶しています。以前、岡山の廃校となった小学校での展覧会で、都市の中心部と思えないくらい静謐な教室に、そこで学んだコードモたちの記憶を生々しく宿した椅子がー列に並び、そこに代わって鎮座するトマトたち。今この瞬間に、生き生きと完全に腐敗していくトマトの呼吸が、そこに生きたコードモたちの幻影と重なり異様なまでにその空間に緊張感を与えていました。その場所の記憶に挑みかかり時に優しく寄り添いながら、現在(いま)を作りあげている。こんな岡部玄の手法をこれまで何度も体験してきました。その仕事ぶりは、こんなことを申し上げては大変失礼でしょうが、いかにも男の子っぽい。(私の感じる女の子っぽい作家の代表は、草間弥生ですが…)先ずその素材を丹念に、執拗に拾い集めるところからはじまり、(集めるのは海岸に漂着した流木やゴム草履などの漂流物のように遙かな時の記憶を宿した物体だけでなく、その場の記憶を宿した壁や床をフロータージュした素材など)かなり個性的で饒舌なそれらの素材たちと激しく討議し仲良く語り合いながら、その置き所を探り一つひとつをブロックかパズルゲームのように、自分の周囲に広がる外なる宇宙と自らの内なる宇宙に広げたく地図>に従って正確に着実に根気よく組み上げていく。そして完成した作品は、場と、材と、自身の体に刻み込まれた記憶と時間が重層的に複雑に絡み合い渾然一体なり底知れぬ巨大な生き物のように厳然とそこに出現し見るものを圧します。しかし、それは決して恐れを抱かせるような醜悪さは微塵もなく<裏山の秘密基地>のようなワクワク感にあふれ、また、それら圧倒的に存在したものが無くなった後の、潔い喪失感と清々しい寂しさは最高の体験です。

以前<マチヲタガヤス>という企画に参加されていましたが、新米百姓を自称される岡部さんが、現在空き家や空き地が点在し少々元気がない勝間田の地をどのように、力強くその作品で耕し新しい空気を漑き込んでくださるか、とても楽しみにしています。

勝央美術文学館 学芸員 野村英子

「風の姿・地の響」計画

会期：8月19日(火)～11月16日(日)

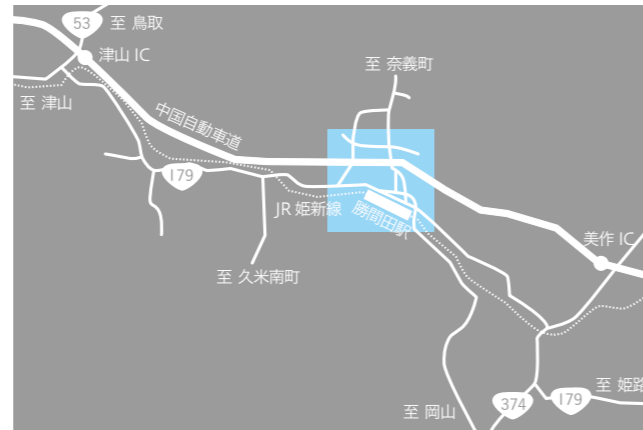
会場：岡山県勝田郡勝央町勝間田エリア
(旧板屋庭園と蔵周辺・下山本陣・勝央美術文学館・旧勝央町郷土美術館)

○お問い合わせ

勝央美術文学館内「風の姿・地の響」事務局
Tel：0868-38-0270

アート・ブリッジ1301実行委員会事務局
Tel：0868-73-0347
E-mail：artbridge1301@artmimasaka.jp
HP：http://1301.artmimasaka.jp

○アクセス



勝央美術文学館
岡山県勝田郡勝央町勝間田 207
Tel：0868-38-0270

旧勝央町郷土美術館
岡山県勝田郡勝央町勝間田 635
Tel：0868-38-0270 (勝央美術文学館)

[電車] JR 岡山駅(津山線で1時間15分)→津山駅(姫新線で15分)→勝間田駅下車。徒歩15分。

[バス] 中国ハイウェイバス(JR 津山駅より15分/新大阪駅より2時間15分)中国勝間田下車。徒歩5分。

[高速道路] 中国自動車道、津山ICより約15分/美作ICより約10分。

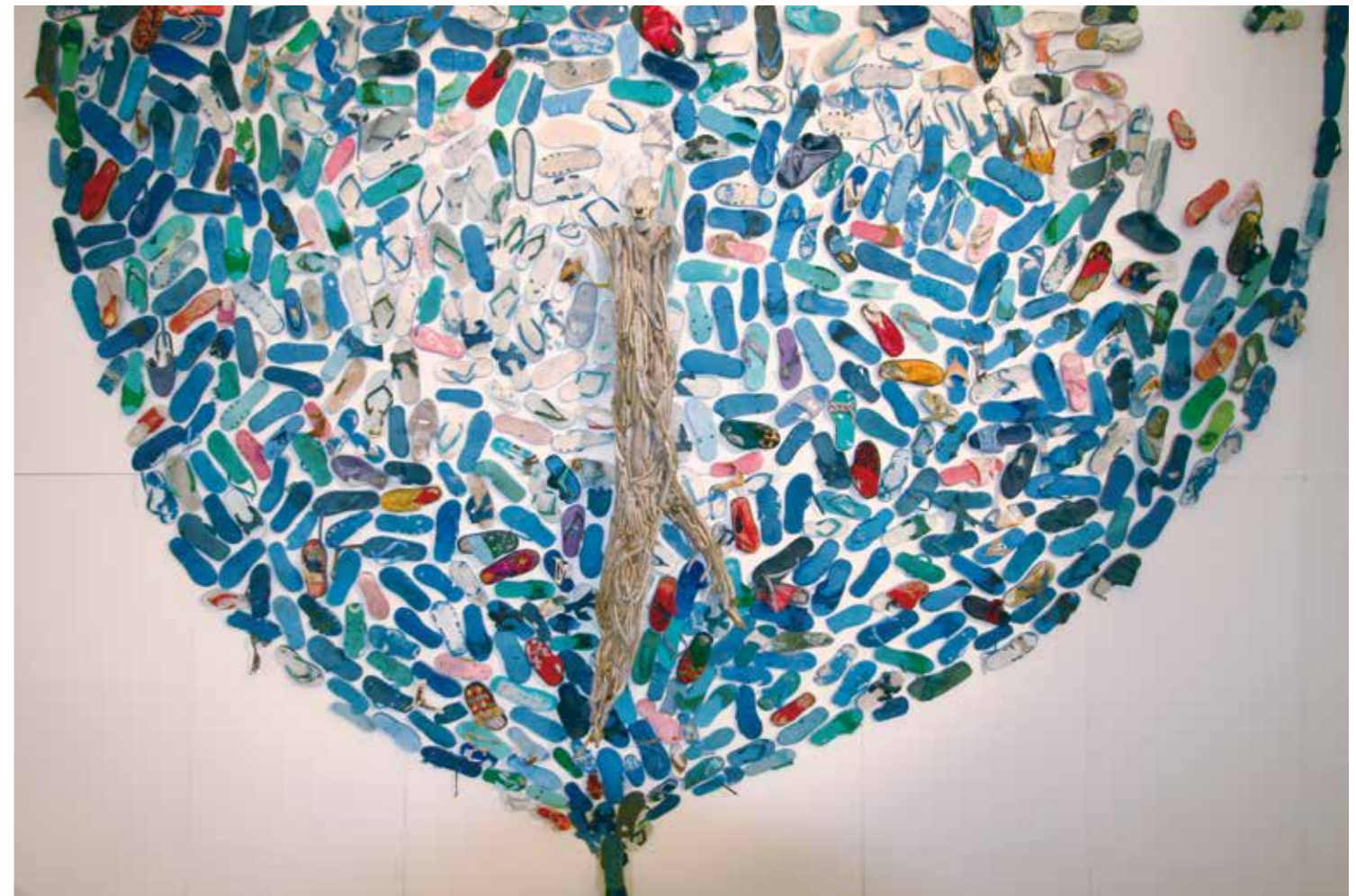
[飛行機] 岡山空港から車で約1時間10分。

風の姿・地の響

岡部玄

会期：8月19日(火)～11月16日(日)

会場：岡山県勝田郡勝央町勝間田エリア(旧板屋庭園と蔵周辺・下山本陣・勝央美術文学館・旧勝央町郷土美術館)



ART
BRIDGE
アート・ブリッジ
1301

主催：岡山県/アート・ブリッジ1301実行委員会

共催：勝央町/勝央町教育委員会

後援：山陽新聞社/朝日新聞岡山総局/毎日新聞岡山支局/読売新聞岡山支局/NHK岡山放送局/RSK山陽放送/KSB瀬戸内海放送/OHK岡山放送/RNC西日本放送/TSCテレビせとうち/エフエム岡山/津山朝日新聞社/テレビ津山/真庭タイムス

協力：おかやま県民文化祭実行委員会



自然からの贈与

生きていく過程で日々様々な出来事に出会います。朝起き出した時晴れやかな青空のもと、小鳥のさえずりに清々しい気持ちになったり、体の痛みで目覚め沈鬱になったり。太陽から降り注ぐ光や見上げた夜空に感動したり。友人との齟齬に思い悩んだり。大海原を前にして己の卑小さに気付かされたり。大震災に動転したり、いたいけなことも達にも容赦なく降りかかる放射能に悲嘆にくれたり。秋の稔に自然からの贈与を悟ったり、赤ちゃんの誕生に嬉々としたり…。

これら“外なる自然”と“内なる自然”との出会いによって起こることがらは、心に幾多もの波紋を投じていきます。いつまでも覚えておきたいこと・早く忘れ去ってしまいたいこと。乗り越えやすいこと・乗り越え難いこと。整理できること・整理し切れないこと。今も記憶していること・いつの間にか記憶から遠ざかってしまったこと…。

記憶から遠ざかってしまったことさえ、じつは、消滅してしまったのではなく、心の襞の奥深くに

岡部 玄

たみ込まれているはずで。

生命の発生の最初期に、まず、襲ができるのだと言われてます。その襲とそれを育む“場”には未生以前の生命記憶が存在しています。人そのものが襲に支えられているとも言えます。魂と名付けられる大切なものも実はそんなところに潜んでいるのかもしれない。

何かを表現しようとするとき、また、そういう意識すらないときも、そんな襲の奥深くに存在していることが知らないうちに現れ出てきてしまうのではないのでしょうか。だから、いつもいつも簡単に言語化できる程に分かりやすい姿をしているとは限りません。また、油断しているといつものクセが邪魔をして、そのデリケートな事象を見逃ごしてしまうことさえあります。

この心の出来事について明らかにす(三次元に出現させ)る仕事はそのことが気になってしまった人の宿命的な役割なのではないでしょうか。上手・下手はともかくとして…。

“外なる自然”と“内なる自然”との出会いによって生起する事象は“うれしい”“悲しい”などの違いはあっても、自然からの贈与そのものです。“作品”と呼ばれているものも、自然からの贈与の賜物です。

ささやかであれ、どんな形であれ魂の贈与の連鎖が実現できれば幸いです。山川草木・鳥獣虫魚、共々幸せになりたいものです。

生命に深く根差していればきっと可能なはず…。『ある願いを持ってひとつのことをひたすら実行し続けていくと奇跡が起こることがある(タルコフスキー)』と信じて。



岡部 玄 | Gen Okabe
1948年岡山県生まれ。1987年、アトリエの掃除のときに、スズメの巣に出会う。以来、スズメを師とあおぎ、制作活動を続ける。

○流木ドーム設営 8/19～10/13

勝間田宿旧板屋庭園・蔵周辺

板屋さんの蔵と庭がとても美しいと感じた。風雪に耐え傷跡を残して静かに佇む蔵の姿、石畳の配置してある庭の姿にひかれ、そのそばに流木ドームを置きたいと思った。

・10/10～13 風鈴・インスタレーション
岡野氏の風鈴数百個を使って

・10/11 コンサート「風の祈り」岡野弘幹 | Hiroki Okano



○茶会とのコラボ 9/13・14

勝間田宿下山本陣

江戸時代の洗練された美を伝える下山本陣。そこで行われる茶会とのコラボレーションを申し入れた。展示するものは、掛軸1点と結界として使っていただきたい流木作品1点。

○滞在制作及びミニ展示 8/19～10/31

旧勝央町郷土美術館(旧勝田郡役所)

勝間田の秘める文化力に学ぶことがいっぱいある。3ヶ月間精進します。

* 流木ドーム設営作業後は旧勝央町郷土美術館2Fで制作作業を続ける。街道祭から金時祭の期間F展示室に作品を展示。(土・日・祝日公開)



○岡部玄作品展「風の姿・地の響」10/1～10/26

勝央美術文学館(展示室/特別展示室)

3・11以降ずっと考えてきたこと、制作し続けてきたもの、などなどを整理して展示。

- ① 物質と記憶
- ② KNOCKIN' ON HEAVEN'S DOOR

・10/4 ワークショップ「ウォーク・イン・ビューティー」



○岡部玄作品展「ドリーム・タイム」11/1～11/16

旧勝央町郷土美術館(旧勝田郡役所)

勝間田の長い歴史の持つ深い時、そこでの3ヶ月のかかわりの時、私自身生を受けた幾十年の時…。様々な位相をもつ時との交接が何を産みだしてくれるのか。

* ドリーム・タイムとはアボリジニの「チュクルバ」の英訳。日本語では「過去・現在・未来が渾然一体となった今」という意味。

・11/1 対談 岡本康明 × 岡部玄

岡本康明 | Yasuaki Okamoto

・11/15 津軽三味線と奄美の島唄

蝦名宇摩・蓮津 | Uma Ebina/Retsu Ebina

岡部玄「風の姿・地の響」計画 日程表

